

⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭54—59372

⑪Int. Cl.³
A 47 J 27/04
F 24 C 13/00

識別記号 ⑬日本分類
35 A 521
35 A 53

庁内整理番号 ⑭公開 昭和54年(1979)5月12日
6566—4B
7116—3L

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑮スチームオープン

門真市大字門真1006番地 松下
電器産業株式会社内

⑯特 願 昭52—123305

⑯出 願 人 松下電器産業株式会社

⑰出 願 昭52(1977)10月13日

門真市大字門真1006番地

⑱発 明 者 浜慶樹

⑱代 理 人 弁理士 中尾敏男 外1名

明 細 書

1、発明の名称

スチームオープン

2、特許請求の範囲

スチームオープン本体と、この本体内に設けたオープン庫とを備え、上記オープン庫は外層と内層とにより構成し、上記内層の壁面に複数のスチーム供給孔を設けるとともに、この内層と上記外層との間隙にスチームを供給することを特徴とするスチームオープン。

3、発明の詳細な説明

本発明はスチームオープン、特にそのスチーム供給構造に関するもので、その目的とするところは調理物に加熱むらがおきるのを防止することとこの調理物に水滴が滴り落ちてべとついてしまうのを防止することと、オープン庫内が油分によって汚れてしまうのを防止することにある。

現在実用化されているスチームオープンではオープン庫の壁面に1個スチーム供給孔を設け、この供給孔からスチームを供給している。

2ページ

このため、オープン庫内においてどうしても上記スチーム供給孔に近い部分と遠い部分ではスチームの影響力が異なることとなり、これにより調理物に加熱むらが生じているのが実状である。

また、オープン庫の壁面温度は低いのでこれにスチームが当たると同部で凝結してこれが調理物に滴り落ちてべとつかせてしまっているのも実状である。

そこで本発明は外層と内層とによりオープン庫を構成し、上記内層の壁面に複数のスチーム供給孔を設けるとともに、この内層と上記外層との間隙にスチームを供給し、これにより上記欠点を解消して初期の目的を達成しようとするものである。

以下、本発明の一実施例を添付図面にもとづいて説明する。

図面において、1はスチームオープン本体で、この本体1の内部にはオープン庫2が設けられ、さらにオープン庫2の前面開口部にはドア3が開閉自在に設けられている。

上記オープン庫2は外層2aと内層2bとによ

り構成され、内層2bの壁面には複数のスチーム供給孔Aが設けられている。

また、上記内層2bと外層2aとの間隙にはボイラ4で発生させたスチームが供給されるようになっている。

なお、この図面の6はボイラヒータ、6は上ヒータ、7は下ヒータ、8は水抜口、9は水受容器である。

上記構成において、ボイラ4内にはU字管の原理により水が矢印Aのごとく供給され、これがボイラヒータ6で加熱されてスチームとなる。

そして、このスチームは内層2bと外層2aとの間隙に供給され、次に内層2bの壁面に設けた複数のスチーム供給孔Aから内層2b内に噴出しこれにより同内層2b内でスチーム調理が行われる。

以上のように本発明は内層の壁面に設けた複数のスチーム供給孔から同内層内にスチームを供給するものであるから、調理物には上下、左右、前後からスチームが噴き付けられることとなり、こ

の結果調理物に加熱むらがおきることはない。

また、内層の壁面に設けた複数のスチーム供給孔からスチームが供給されるので結果として内層の壁面は高温となり、この結果、従来のようにこの壁面でスチームが露結し、それが調理物に降り落ちてべとつかせてしまうことはなくなる。

さらに、内層の壁面は肉汁等によって汚れやすいが、本発明によれば内層の壁面に設けた複数のスチーム供給孔からスチームが噴出するので、この汚れをスチーム洗浄することができ、常にオープン庫内を清潔に保つことができる。

4、図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例にかかるスチームオープンの断面図である。

1……スチームオープン本体、2……オープン庫、2a……外層、2b……内層、4……ボイラA……スチーム供給孔。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名。

